

団長の心のものさし

音楽の基本はセッションだ！
緊張感と信頼
その狭間で
楽しむ！

ジョイントでしか得られない力がある！

来る7月17日に行われる第1回混声合唱団コーロ・Gui & 合唱団「あるも」合同演奏会に向けての、指揮者のピアノ合わせが11日、富山市の富山市民芸術創造センターで行われた。今回の公演では、あるも側のピアニストが出演できないため、コーロ・Guiのピアニストでうたおにのふさちゃんが、全曲ピアノを弾くことになっているからだ。コーロ・Guiの役員として橋口さん、山田さんを伴った4名で富山入りした。

午後1時からの練習に数分遅れて



いつも気さくな森川紀博先生

会場に到着すると、すでにあるもの森川先生が待ち受けていてくれた。いつもながら気さくな、気取りのない雰囲気だ。挨拶もそこそこに練習開始。あの練習のテンポ感や間は健在だ。森川ワールドがすぐに展開した。作品に対する解釈には、いつもながら深い共感を覚える。僕は、指揮者はトレーナーではないと考えているから、こうした解釈や思いを伝えてくれる指導者を好んでいる。森川先生の醸し出す空気感は羨ましいほどだ。今どんなに頑張ってもあの境地までは到達できない。今回の合わせでは「水のいのち」が課題であるが、全5曲のほとんどにその思いを伝え、細かな段取りを打ち合わせるといふ、非常に簡潔な練習だ。それ以外は合唱談義(笑)。実に愉快だ。熱い時代、熱中時代を過ごした経験が懐かしい思い出と共に音楽に反映されていると言っていいたいだろう。コーロ・Guiもだが、うたおにとのジョイントも非常に楽しんだ。

客観的に見ることの大切さ

いつもは自分が指揮者の立場として観ているピアニスト。どうしても

イントロや間奏以外は、コーラスの方に気が向くため、なかなかしっかりと聴けないピアノ。指揮者との呼吸感など発見が多かった。

ジョイントは、ほとんどセッションのレベル。即興とまではいかずともそれに近いレベルで、それに対応する技量が要求される。それを楽しめるかどうかは鍵だ。段取りの少ない指揮者とは特にこの適応力が要求される。不安から開放されるその方法として段取りを要求するのか、それともその不安や緊張感を楽しもうとするのか。その道の選択が、仕上がってくる音楽に大きな差を生み出すだろう。



ピアノ合わせに付き合うメンバー

練習後は、あるも側から益山団長、松木君、森田さん、星野さん、あややと合流。月末の合同練習、本番の予定などを打ち合わせしつつ、一緒に呑んで食べて…いつものコースで富山の夜を楽しんだ。

とみーがリサイタル！？

先日結婚したばかりの「あるも」のとみーが3大テノールのリサイタルに出演！5月22日午後4時から富山市民プラザアンサンブルホールで開催される。とみーの音楽の先生、北村雅彦さん、カルミナでお世話になった伊東康孝さん(清水さんのご主人)



との共演。ピアノはもちろん清水香里さん。意欲的な音楽活動に脱帽だ。彼の歌の力はこういう姿勢から来るのか、乞うご期待！

うたおにの5月10日(月)の様子

練習内容

「Mass From Two Worlds」より

Gloria

Ave verum corpus

ついに決定だ。合唱祭はAriel Quintana作曲「Mass From Two Worlds」より「Gloria」。内容も時間的にもバッチリである。ブラームスを推したメンバーが予想以上に多かったの

は意外だった。どの作品でも構わない。ただ、自分の意見を表現しないよりは、意見を出す姿勢に心動く。「わからない」「どれに決まってもいい」それも意見だと思う。何を考えているのか分からないのでは、探り合いに終わる。表現することが私たちの本分だと考えると、もっと意見が出て欲しいと感じた。しっかりと納得していることも分かるのだが。